

総説 (一般)

世界におけるゲノム編集技術をめぐる規制動向：農業・食品分野を中心に

立川雅司¹⁾・松尾真紀子²⁾

(¹⁾名古屋大学, ²⁾東京大学)

Breeding Science 74: 3–10 (2024)



市民の視点から探る日本におけるゲノム編集食品の社会受容

山口富子¹⁾・江崎和音²⁾・伊藤京子^{3,4)}

(¹⁾国際基督教大学教養学部, ²⁾立教大学理学部生命理学科, ³⁾京都橋大学工学部, ⁴⁾大阪大学大学院情報科学研究科)

Breeding Science 74: 11–21 (2024)



育種で用いられるゲノム編集ツール Cas12a と MAD7

穂積俊矢¹⁾・陳 奕臣^{1,2)}・竹本龍也^{1,2)}・沢津橋俊^{1,3)}

(¹⁾株式会社セツロテック, ²⁾徳島大学先端酵素学研究所発生生物学分野, ³⁾徳島大学先端酵素学研究所リエゾンオフィス)

Breeding Science 74: 22–31 (2024)



スカーレスゲノム編集技術と作物改良への応用

池田和哉

(Bayspair Inc.)

Breeding Science 74: 32–36 (2024)



アスパラギン低含有コムギ：食品中のアクリルアミドと作物のゲノム編集に関する規制が急速に変化する中で行われる欧州初のゲノム編集コムギの野外栽培試験

Navneet Kaur¹⁾・Natasha Brock¹⁾・Sarah Raffan²⁾・Nigel G. Halford¹⁾

(¹⁾Rothamsted Research, United Kingdom, ²⁾The Salk Institute for Biological Studies, United States of America)

Breeding Science 74: 37–46 (2024)



ゲノム編集技術のメロン育種への利用の可能性について

野中聡子・江面 浩

筑波大学つくば機能植物イノベーション研究センター (T-PIRC) 生命環境系

Breeding Science 74: 47–58 (2024)

原著論文

DWARF と *SELF-PRUNING* のゲノム編集は、トマトの有用な特性を保持しながら、植物工場に適した特性を迅速に付与する

長嶺 愛・江面 浩
筑波大学生命環境系

Breeding Science 74: 59–72 (2024)